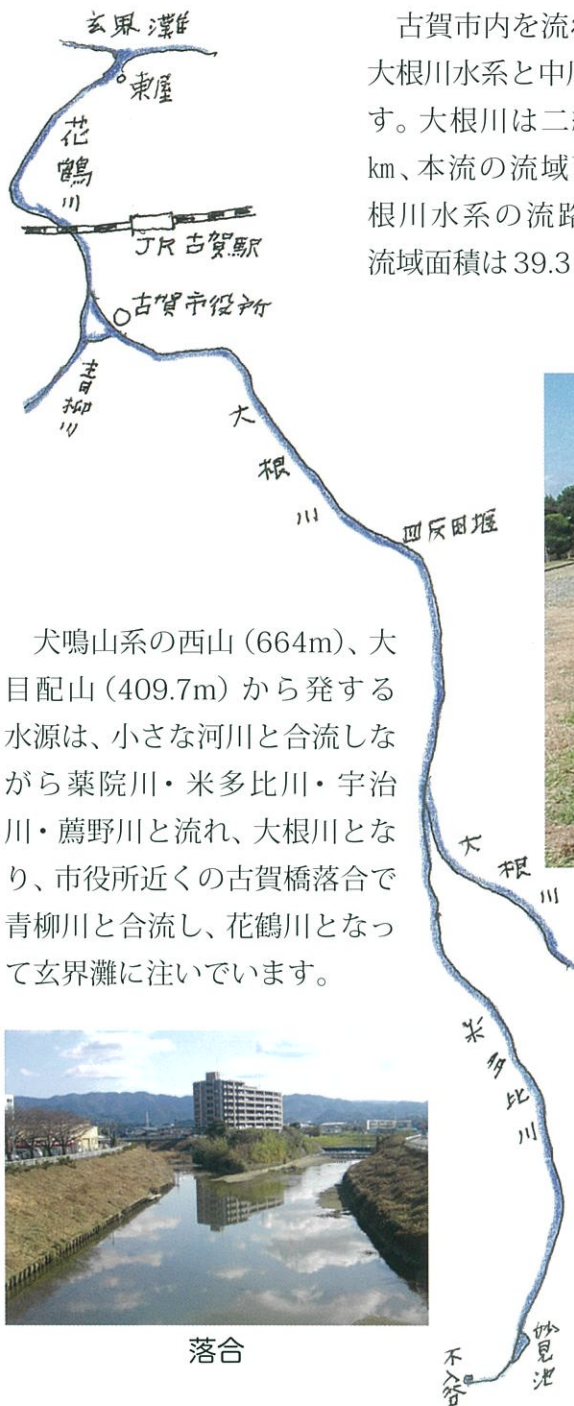


## 大根川の風景 (1)

## 空海伝説・水無川・不入谷



古賀市内を流れる河川は、大きく大根川水系と中川水系に分けられます。大根川は二級河川で流長約11km、本流の流域面積は12.6km<sup>2</sup>、大根川水系の流路は延長約26.6km、流域面積は39.3km<sup>2</sup>です。



犬鳴山系の西山(664m)、大目配山(409.7m)から発する水源は、小さな河川と合流しながら薬院川・米多比川・宇治川・薦野川と流れ、大根川となり、市役所近くの古賀橋落合で青柳川と合流し、花鶴川となって玄界灘に注いでいます。



落合

古代から中世にかけて上流には鹿部田渚遺跡があり、大型建造物や、大量の貿易陶磁器が出土しているので、津か波止の存在の可能性がります。



花鶴川 河口

花鶴川の河口に出ると白砂青松の浜が弓状に拡がり、沖には相島をはじめ玄界の島々が浮かんでいます。河口に近い東屋には、花鶴川と大根川の由来を刻した円形の碑があります。江戸時代の元和9年(1623)には花鶴浦に7人の水夫(かこ)がいて、舟の数は記載されていません(松本家文書)。明暦4年(1658)花鶴浦は漁業権を放棄しています。しかし、



四反田堰



上米多比

大根川は「十月より水漸少くなり、極月（12月）に至て極で少し。正月二月のころより漸水まさり、三・四月に至て多くなる。（中略）水のすくなき間は、地中を水流通するにや。十月の比は洪水出ても、水すくなくかつ早くへりやすし」（『筑前國續風土記』）と記載されています。これが水無川と呼ばれ、弘法大師が絡む大根川伝説を生んだのでしょう。

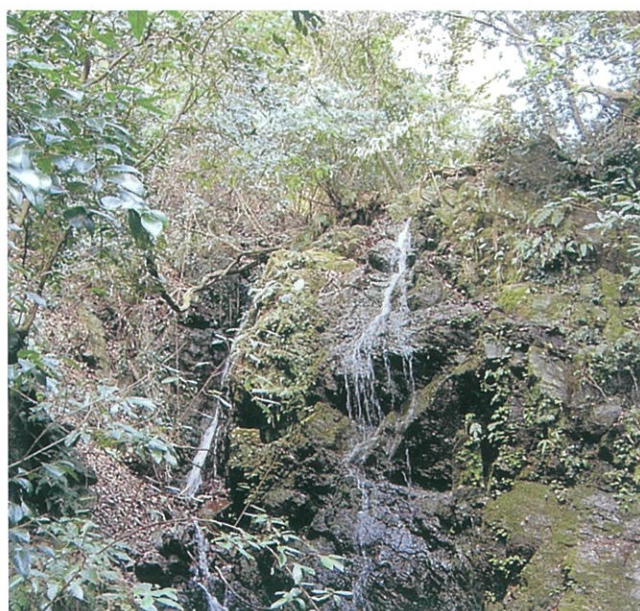
大根川は水田地帯を上り、蛸ヶ丘団地の道路沿いを流れ、筵内区に入ります。川は以前集落の中央部を流れていましたが、度重なる災害に人々は悩まされていました。昭和28年の九州大水害で被害を受け、28年から大根川の位置をかえる大

改修が行われ、31年に完成しています。

上米多比の集落から山手に入り込む細い道路の横に、幅1mほどの川が流れています。集落を抜けると、杉林が拡がり溪流のせせらぎの音もさわやかに聞こえ、心地よいものです。妙見池は享保18年(1733)築堤、(『福岡県地理全誌』)、池の横の道路を上っていくと池の東端に出ます。道路の脇に観音像や石祠が並び、道路の下は細い川が勢いよく流れています。コンクリートの舗装道路に刻された文字は、S 61年9月とありました。なだらかな坂道を登っていくと、舗装が終わり、正面に「不入谷」の標識がたっています。川は細く、山も急傾斜となり一人がやっと通れる山道です。「イラン谷山 村ノ東南ニアリ 山麓妙見ヨリ絶頂へ十二町、雑木立険阻ナリ」（『福岡県地理全誌』）、さらに上ると、明治14年に設置された裏糟屋四国四十五番札所があり、本尊不動明王や弘法大師像等が祀られています。



不入谷入口



谷川の流れ

不入谷は、妙見池の水源確保のためか、また修験者の行場として、人々が勝手に立ち入る事を制限したものでしょうか。



四十五番札所 大師堂